

平成29年11月17日

常総市

茨城県

下館河川事務所

八間堀川への流入水路に着目したタイムラインについて

1. 概要、目指す成果

鬼怒川と小貝川に挟まれた低平地を流れる八間堀川は、合流先の鬼怒川の影響を大きく受けるとともに、多くの水路が流入し、旧八間堀川で小貝川に接続する複雑な機構である。また、鬼怒川への合流点付近は常総市の中心市街地となっているが、地盤が川よりも低く、水災害リスクが高い地域である。

このたび、国土交通省下館河川事務所、茨城県(常総工事事務所)、常総市、江連八間土地改良区及び住民が、以下の成果を得ること目指し、「八間堀川への流入水路に着目したタイムライン(案)」を整理することとする。

- 関係機関の防災行動を整理したタイムラインを作成する
- 八間堀川周辺の水災害リスクと冠水メカニズムを理解する
- 他機関の防災行動を把握するとともに、自機関の防災行動との繋がりを認識する
- 樋門操作等のこれまでも実施してきた防災行動を確実に実施する
- 情報発信等の他の機関の防災行動を支援する防災行動を新たに実施する

2. 取り組みの進め方(案)

- ① 各機関の防災行動を把握・整理 (11月)
現在の流入水路の諸元や操作規則に基づき、関係機関がそれぞれの防災行動を整理する。
- ② タイムライン(案)の作成(12月)
関係機関が整理した防災行動を用い、時間軸を揃えてタイムライン(素案)を作成する。
- ③ 情報伝達演習シナリオ等の作成 (1~2月)
鬼怒川・小貝川・八間堀川における任意の水位上昇を想定し、情報伝達演習シナリオを作成する。また関係機関は、情報伝達演習シナリオに基づき、情報発信の充実を図るなど防災行動を拡充し、タイムライン(案)を作成する。
- ④ タイムライン(案)を活用した情報伝達演習の実施 (3月)
体育館等において、関係機関が一堂に会し、作成したタイムライン(案)を活用して情報伝達演習を実施する。なお、八間堀川周辺の洪水リスクと冠水メカニズム、関係機関の防災行動等を広く一般に周知するため、演習はマスコミを通じて公表することとする。

3. 検討参加機関

鬼怒川、小貝川及び八間堀川に関係する次の機関が参加し、「八間堀川への流入水路に着目したタイムライン」を検討することとする。

○常総市

- ・市長公室 防災危機管理課
- ・経済環境部 農政課
- ・都市建設部 道路維持課
- ・都市建設部 道路建設課
- ・水海道諏訪町自治会
- ・水海道淵頭町自治会
- ・水海道橋本町自治会
- ・水海道森下町自治会
- ・新井木町自治会
- ・相野谷町自治会
- ・常総市消防団

○常総地方広域市町村圏事務組合消防本部

- ・水海道消防署

○江連八間土地改良区

○茨城県

- ・常総工事事務所
- ・土木部河川課

○国土交通省 下館河川事務所

- ・調査課
- ・管理課
- ・鎌庭出張所

○気象庁水戸地方气象台

○国土地理院関東測量部

○学識経験者

- ・筑波大学 システム情報系 構造エネルギー工学域 准教授 白川直樹